

第5学年 国語科学習指導案

日時 10月29日(火) 第3校時

場所 5年教室

指導者 教諭 西本 泰之

研究主題

かかわり合い、深め合いながら、自らを高め続ける児童の育成
～確かな言語能力を育成する国語科教育を通して～

- 1 単元名 宮沢賢治の作品を読んで、読書会で話し合おう
- 2 研究主題との関連

本単元では、第5学年及び第6学年「C 読むこと」の言語活動例「イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。」を受けて、「宮沢賢治の作品を読んで、読書会を開こう。」を主たる言語活動として位置づけた。ここで言う読書会とは、物語の中から話し合いたいテーマを決め、そのテーマについての自分の考えをまとめ伝え合う活動である。伝え合う場面では、「意見も理由も同じだ」「意見は同じでも理由はちがう」「意見はちがったが理由は同じだ」「意見も理由もちがう」という観点から、それぞれの考えの根拠を叙述を基に話し合わせる。このことにより、本単元でねらう「C 読むこと」の指導事項「カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。」が実現できると考えた。

また、読書会の前後での自分の考えを「友達の意見を聞いて変わった」「変わらなかったが、友達の意見の～の部分に納得した」「伝え合いを通して、自分の考えがより強くなった」という3つの視点から振り返る。そのことで、「A 話すこと・聞くこと」の指導事項「エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。」も実現できると考えた。

3 指導の立場

(1) 児童観

本学級の児童は、音読による表現の工夫に意欲的に取り組む。4月の「だいじょうぶだいじょうぶ」の学習では、登場人物や場面の様子を伝わりやすく他学年に向けて音読発表する活動を通して、物語を読んで想像したことを抑揚や強弱などの工夫を凝らして音読で表現することができた。また、物語の構成を捉える学習では、6月の「世界でいちばんやかましい音」で、物語の構成や山場での変化を捉え、物語を面白くするという山場の役割に気付くことができた。しかし、登場人物の心情や場面の様子、物語の構成を捉えることができて、それらを明確な根拠をもって説明することは難しく、他者と交流しながら考えを広めていくことも難しい。そのため、物語の内容について叙述を根拠に考えを持ちながら友達と意見を交流し読み深め、自分の考えを広げる力の向上が必要である。

(2) 教材観

本教材は、文明化し自然から遠のいた現代の人々の風俗を二人の紳士という人物に反映し、懲罰的な結末に宮沢賢治の文明社会への警告的メッセージを読みとることができる作品である。叙述から紳士の人物像が捉えやすく、物語の展開と読み合わせることで、物語に込められたメッセージを読み解くことができると考える。また、「風がどうとふいてきて・・・」という繰り返しの言葉や、戸の言葉の真意と紳士の誤解、多様な擬声語など、物語を面白くする仕掛けが多数ある。よって児童は、叙述を根拠に読書会のテーマに沿って楽しみながら物語を解読し、物語に込められたメッセージについて話し合い考えを広めていくことができると考える。

(3) 指導観

○読書会を行うことを知らせ、学習計画表を掲示することで、学習に見通しを持って取り組めるよ

うにする。

- 読書会のルールを提示し、全員を話し合いに参加させることで、話し合いにより1人1人の考えが広がっていくようにする。
- 読書会を通して自分の考えがどうなったかを振り返らせることで、友達の意見と比較しながら自分の考えをまとめることができるようにする。
- 単元を通して、読み取った内容を整理したものを掲示していくことで、常時視覚的に振り返ったり、他の場面と比較したりしながら、考えられるようにする。
- 事前に自分の考えを書かせておくことで、読書会に1人1人が参加できるようにする。
- 意見を持つことが難しい児童にはヒントカードを渡し、意見がまとめられるようにする。

4 単元の指導目標

- 読書会で取り扱う物語を進んで読み、自分の考えを広げようとしている。
【我が国の言語文化に関する項目(3)一オ】
- 読書会テーマについての考えを共有しながら、考えを広め伝え合っている。
【C 読むこと(1)一カ】
- 友達の意見と比較しながら、自分の考えをまとめている。
【A 話すこと・聞くこと(1)一エ】
- 考えを伝え合うことに意欲的に取り組もうとしている。
【主体的に学習に取り組む態度】

5 単元の評価規準

知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
・進んで読書をし、自分の考えを広げようとしている。 (3) - オ	・読書会で意見を伝え合いながら、考えを広めている。 (読力) ・読書会での交流を振り返り、自分の考えをまとめている。 (話・聞エ)	・読書会を通して、考えを伝え合うことに積極的に取り組もうとしている。

6 指導計画(全12時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点(・) 言語活動の充実のための指導(㊦)	評価規準 【観点】[方法]
一	1	・宮沢賢治の作品について、読書会を開くことを知り、見通しをもつ。 ・p240「宮沢賢治」を読み、宮沢賢治の人物像を捉える。	・宮沢賢治の作品に興味を持てるよう、何冊かの作品を事前に読み聞かせる。 ㊦ p240「宮沢賢治」から読み取れる宮沢賢治の人物像を付箋に記入し、根拠となる叙述のそばに貼ることで、読み取った事を視覚化するよう指導する。	【知】読書会に興味を持ち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 [観察・発言] 【考】本文を読み、宮沢賢治の人物像を捉え、まとめている。 [付箋・発言]
二	2	・「注文の多い料理店」を読んで、初発の感想を書く。	・感想が書けるように「登場人物についてどう思ったか」「面白いと思ったこと」の2つの視点を持たせて読ませる。	【技】【考】物語の内容を大体捉え、内容や叙述についての感想をもつことができる。 [発言・ノート]

	3	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物や出来事の順番を押さえて、場面を分ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 「場所」「登場人物」を根拠に場面を分けさせることで、物語を3場面に分けられるようにする。 	<p>【技】【考】叙述を基に登場人物や出来事をまとめ、物語を3つの場面に分けることができる。</p> <p>[発言・ワークシート]</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> 「現実の世界と不思議な世界への入り口と出口」テーマについて読書会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前にテーマについての意見を書かせておくことで、全員が読書会に意見を持って参加できるようにする。 ㊦児童同士の対話を活性化させるため、「読書会ルール」「読書会を終えて」を掲示し、視点を持って活動できるよう指導する。 	<p>【考】自分と友達の意見を比べたり質問したりしながら、考えを広めている。</p> <p>[発言・ワークシート]</p> <p>【考】読書会を通して、自分の意見をまとめ直している。</p> <p>[ワークシート]</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> 戸の言葉について、山猫の真意と紳士の受け止め方を比べて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つの言葉から二つの意味が読み取れる面白さに気づかせるため、二者それぞれの立場を押さえた上で考えさせるようにする。 	<p>【考】戸の言葉から読み取れる二つの意味を捉えている。</p> <p>[ワークシート]</p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> 本文を読んで、2人の紳士の人物像を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> 紳士の人物像を考える際に、叙述に基づいて考えさせるようにする。 ㊦紳士の人物像を付箋に記入し、根拠となる叙述のそばに貼ることで、読み取った事を視覚化できるよう指導する。 	<p>【考】叙述を基に、2人の紳士の人物像を読み取っている。</p> <p>[付箋・発言]</p>
	7	<ul style="list-style-type: none"> 「物語を通じて、紳士が変わったところ、変わらないところ」というテーマについて読書会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前にテーマについての意見を書かせておくことで、全員が読書会に意見を持って参加できるようにする。 ㊦児童同士の対話を活性化させるため、「読書会ルール」「読書会を終えて」を掲示し、視点を持って活動できるよう指導する。 	<p>【考】自分と友達の意見を比べたり質問したりしながら、考えを広めている。</p> <p>[発言・ワークシート]</p> <p>【考】読書会を通して、自分の意見をまとめ直している。</p>
	8 〈本時〉	<ul style="list-style-type: none"> 「なぜ紳士の顔は元にもどらなかったのか」というテーマについて読書会を開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前にテーマについての意見を書かせておくことで、全員が読書会に意見を持って参加できるようにする。 ㊦児童同士の対話を活性化させるため、「読書会ルール」「読書会を終えて」を掲示し、視点を持って活動できるよう指導する。 	<p>【考】自分と友達の意見を比べたり質問したりしながら、考えを広めている。</p> <p>[発言・ワークシート]</p> <p>【考】読書会を通して、自分の意見をまとめ直している。</p>

	9	<p>・「この作品のおもしろさ」というテーマについて読書会を行う。</p>	<p>・事前にテーマについての意見を書かせておくことで、全員が読書会に意見を持って参加できるようにする。</p> <p>◎児童同士の対話を活性化させるため、「読書会ルール」「読書会を終えて」を掲示し、視点を持って活動できるように指導する。</p>	<p>【考】自分と友達の見解を比べたり質問したりしながら、考えを広めている。</p> <p>[発言・ワークシート]</p> <p>【考】読書会を通して、自分の意見をまとめ直している。</p>
三	10 11 12	<p>・児童が選んだ宮沢賢治の作品で、読書会を行う。</p>	<p>・事前にテーマについての意見を書かせておくことで、全員が読書会に意見を持って参加できるようにする。</p> <p>◎児童同士の対話を活性化させるため、「読書会ルール」「読書会を終えて」を掲示し、視点を持って活動できるように指導する。</p>	<p>【考】自分と友達の見解を比べたり質問したりしながら、考えを広めている。</p> <p>[発言・ワークシート]</p> <p>【考】読書会を通して、自分の意見をまとめ直している。</p>

7 本時の学習（第二次 8/12）

- (1) 目標 テーマに沿った読書会を行い、文章を読んでまとめた意見や感想を対話的活動で共有することを通して、自分の考えを広めることができる。
- (2) 準備 物語構成図 読書会ルール表 ワークシート 振り返りの視点揭示
- (3) 展開

過程	学習活動・内容 予想される児童の反応	教師の働きかけ (○) 言語活動の充実のための指導 (◎) 評価(◆)
つかむ	1 最後の場面を音読し、読書会のテーマを確認する。	○学習計画表から、本時の学習課題を確認させる。 ○自分の意見と本文を結びつけるため、最終場面を音読させる。
「なぜしんしの顔は元にもどらなかったのか」というテーマについて、読書会を開こう。		
つなげる	2 顔がもどらなかった理由を班で話し合う。 ・顔だけがもどらなかった理由 【予想される児童の反応】 ・生き物を大切にしないしんしに、罰が下ったんだと思う。 ・えものを逃した山猫が ・「泣いて泣いて泣いて泣きました」とあるから、すごく怖かったと分かる。だから顔が戻らなかったんだと思う。 ・食べる側ではなく、食べられる側だと気づいたしんしは、「あんまり心をいためた」とある。東京に帰ってもそのことが忘れられなかったから、戻らなかったんだと思う。 ・宮沢賢治は自然を大切にしている人だから、自然を大切にしないしんしをこらしめる意味で、顔をもどさなかったんだと思う。	◎児童同士の対話を活性化させるため、「読書会ルール」を掲示し、視点を持って読書会に当たるよう指導する。 ◎考えを伝えるときには、聞き手に根拠が明確に伝わるように、教科書を開いて根拠となる叙述を指で示しながら伝えるよう指導する。 ○友達の意見を端的にまとめてノートに記入させることで、友達の意見と自分の意見を比べながら考えるようにする。 ◆意見を比べながら意見を繋げたり質問したりするなど、考えを広めようとしている (発言・ワークシート)
深める	3 顔がもどらなかった理由を全体で比較・整理する。 ・友達の意見との比較や整理 【予想される児童の反応】 ・ぼくの考えの「怖かったから」と、～さんの考えの「あんまり心をいためたために」の理由は似ていると思いました。なので、やっぱりすごく怖かったからというのが、顔がもどらなかった理由だと思います。 ・怖かっただけでは、顔がもどらない理由にはならないと思う。しんしの自然を大切にしないところは変わらなかったの、やっぱりしんしに対する罰だと思ふ。	○意見を板書に構造化し、全体の意見の繋がりを捉えやすいようにする。 ○全体交流に適宜グループワークを組み込み、意見を繋げられるようにする。 ◎児童から出た意見を、前時までの物語構成図と比較し捉えさせる事で、交流を通して考えが広げられるよう指導する。

<ul style="list-style-type: none"> ・しんしへの罰という考えがあったけど、作品には作者の思いが込められているから、それは自然が好きな作者からの罰だと思う。 	
<p>4 読書会後の自分の意見をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えの変化に視点をおいた振り返り 	<p>○初めに持っていた自分の考えが、読書会を通してどう変化したか、という視点で振り返りを書かせるようにする。</p>
<p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は「怖かったから」という考えでしたが、～さんの「あんまり心をいためたため」という理由が似ていたので、自分の考えがより強くなりました。 ・ぼくは「自然を大切にしない紳士への罰」という考えでしたが、～さんの「作者の思いがこもっている」という考えに納得して考えが変わりました。 	<p>㊦振り返りの3つの視点を示した「読書会を終えて」を掲示し、1人1人が読書会前後の自分の考えの変化を捉えられるよう指導する。</p> <p>◆読書会で聞いた友達の意見と比較して、自分の考えをまとめている。</p> <p>(発言・ワークシート)</p>

読書会のルール

1 みんなで参加！

～顔をよせ合って、話をぶって～

2 納得させよう！

～顔をよせ合って、話をぶって～

3 分かってくれているかな？

～聞いている友達の反応を見て～

4 話す人が安心！

～あいづちを打って～

5 同じ考え、ちがう考え

～自分と友達の考えを比べながら～

6 その考えちょっと待った！

～「でも」「それは…じゃない？」「要するに…ってこと？」「やっぱり～じゃない？」～

読書会を終えて・・・

- 1 わたしの考えは変わりました。
- 2 わたしの考えは変わりませんでした
ですが、～さんの考えは良いなと思
いました。
- 3 わたしの考えがより強くなりました。
た。